

RKM会報

第26回ホームカミングデイ



平成17年9月10日（土）、同窓会主催のホームカミングデイが開催されました。

RKMは、例年通り、前半（14時～）は高中体育館にて現役との交流試合を楽しみ、後半（16時半～）は高中集会所にて他部OBとの懇親に杯を傾けました。今年は民族文化部の講演があり、運動部OBも大勢聴講していたとのこと。

山崎正晴コーチは学外での審判の為不参加でしたが、高中合せて40名強の部員にビックリしつつ、ロートルから若手までいろいろなレベルの交流試合を数多く楽しむことが出来ました。山崎元男校長にも参加頂きました（武蔵出身ではありませんが、バスケの経験もあり、畑公ともコンビを組んで主に中学を教えていたとのこと）。バレー部もいるので2面使えないのが残念な盛況さでした。

このような状況で時間が不足した為、恒例のフリースロー大会は中止させて頂きました（好評なので次回からは必ず実施するようにします）。

なお試合中、川浪先輩（29期）がアキレス腱を痛み、増島先輩（45期）の勤める東芝病院に緊急入院する事故がありました。お見舞い申し上げます。

武蔵木曜会で佐室瑞穂氏が講演

10月13日学士会館において「武蔵木曜会」例会が行なわれました。

「武蔵木曜会」とは「第一線で活躍している同窓生の講演と懇親」（会の紹介文章より）を目的として年5回開催されているものです。（委員長をされているのはRKM29期の澤田嘉夫氏）

RKMメンバーとしては昨年も44期の増島君がスポーツ医学の分野での講演がありそれ以来1年ぶりの仲間の出番となりました。

今回10月13日の例会においては32期の佐室瑞穂氏（前キリンビバレッジ社長）が、ビールに纏わる話題や体験談、ビールと健康についての知識などについて話していただき、面白く、かつ分かりやすいその講演はさすが業界人と好評を博しました。

▶佐室瑞穂氏（左）



2005年度、高校新人戦

第1戦/平成17年10月30日

武蔵 89 - 67 豊島学院

観戦記： 瀬古孝男 (22期)

スタートから元気の良い試合振りで一進一退、10点以内の点差で推移し、第3Q終了時は59-51で武蔵リード。第4Qに入ると、相手が根負けしたのか、挽回しようとしたのか、パスミス、シュートミスを連発し、それに乗じてこちらがリードを広げ、89-67で快勝した。

新人戦としてはびっくりするような上手いプレイ (激しいフットワークのディフェンス、軽いパスワーク etc.) も見られたが、反面、狙いすぎや焦りによるまぜいプレイも多かった。しかし、この欠点は若いチームでは当たり前のこと。何よりも双方のチームの頑張りどフェアプレイが印象に残る好ゲームだった。

第2戦/平成17年11月3日

武蔵 75 - 56 学習院

観戦記： 黒板行二 (23期)

武蔵は今日の対学習院戦に勝って、新人戦第3支部大会の3回戦に進むことになった。これに勝てば数年ぶりの本戦(都大会)出場となる。元気の良いチームだ。試合場は巢鴨で場所も便利だ。OBはみんなで駆けつけて、大声援でぜひ勝ってもらおうではないか。

学習院の体格はうちより大分よいのだが、動きと闘志で圧倒し、20点差の大勝であった。2年生、1年生とも良くやっていたが、特にポイントガードの須賀(2年)はドリブルにスピードがあり、全体が良く見えている。藤江(2年)は3ポイントも決めるし、ドライブにセンスの良さを見せる。渡部(秀)(2年)は自分より大きく幅もある相手のセンターを押しつけるゴール下の強さを見せた。一番長身の脇田(1年)はアウトサイドもできる。欲を言えば全体にもう少しシュートの正確さが欲しいところだが、これからどんどん上達するだろう。

初めからリードしていたが、第2Qで追いつかれたのはコーチの山崎先生が須賀(2年)を退かせたからで、1年生ガードは相手のプレスディフェンスに苦労していた。良い経験になったろう。

観戦する三輪は「ファウルしないでしっかりつくディフェンスは慶応より上だ」、黒板と瀬古は「フリースローがうまい、東大に欲しい」と、終わったばかりの大学リーグ戦と比べていた。

ほかには鹿子木(基)、吉永、時任などが応援した。観戦応援したOBみんなの感想は、「元気が良くて、面白い。次も必ず応援に行く」です。

第3戦/平成17年11月6日

武蔵 73 - 112 大東文化

観戦記： 瀬古孝男(22期)、黒板行二(23期)

この試合に勝てば本大会に出場できるのであったが、残念ながら及ばなかった。

前半は3ポイントを含む積極的な攻撃と懸命の守備で食い下がったが、先週の試合でも見せたプレスに弱いところを突かれ、次第にリードを広げられた。これくらいの相手になると、うちのポイントガード須賀(2年)のドリブルだけでは通用しない。(前半終って29-44)。

後半は、ハーフラインを越えたところえもらいに行くように改めて、プレスはいくらかしのげたが、全体に優勢な相手の力がかわしきれなかった。走力の差が徐々に出て、ディフェンスが小さくなる場所を見すました3Pシュートを確実に決められ、ドライブインにもつききれない。それでも我がチームは果敢にボールを前線に進め、身長は互角なのにリバウンドでは負けない頑張りを見せた。渡部(2年)に代わって今日は若杉(1年)が、身長はさほどでもないのに体格を生かしてゴール下で頑張り、No.13も終盤得点を重ねた。しかし、疲労もあったのだろうが、折角の得点直後にもロングパスでゴールを返される場面が何回もあった。最終スコアは73-112の口惜しい完敗であったが、最後まで全力で頑張った良い試合だったといえる。

試合後、瀬古からは「モーションの大きいロングパスを相手に狙われて、何回もカットされていた。もっと小さいモーションの、確実な、正確な、受ける側の取りやすいパスを、練習中、常に心掛けて欲しい。パスに限らず、リバウンド、ルーズボール、シュート、一つ一つのプレイに気持ちを込めて練習すれば、もっと強くなる。シュートの確度も上がるだろう。」黒板からは「武蔵を出たのはもう55年前だが、君達のプレイに懐かしい思いだ。今日の相手との差は今までの走った距離、走った時間の差だ。冬の間鍛えれば力はどんどんつく。また見せてもらう。」と、若い、若い後輩諸君にいました。武蔵高校も春にはもっと強い、良いチームになると期待している。今日は大勢のお母さん方と、三輪、吉永、桑水流と我々が応援団であった。

以上(参考:都高校男子バスケットのサイト <http://tokyo.jabba-net.com/hs/men/>)

2005年度、中学新人戦

第1戦/平成17年10月9日

武蔵中 106 - 10 旭丘中

第2戦/平成17年10月16日

武蔵中 23 - 99 大泉中

観戦記： 渡部大祐 (74期)

中学ではミニバス経験の有無が大きくものを言うかもしれませんが、高校でいい選手となれるよう基礎を徹底的に強化する方針で指導しています。例えば、ボール・ハンドリングやノーモーションパス、良いシュートフォームなど当たり前のことが当たり前にできるように練習しています。ただ、コーチの経験不足ゆえ、毎年必ずしも技術を伝えきれていないのも確かです。

RKMのほうで中学指導マニュアルのようなものを、僕の後任コーチの為に作って頂けるとより効率よく練習を指導できるような気がします。

私学戦略報

会場は全て帝京高校(十条駅から徒歩約15分)。帝京大学病院からさらに離れたところ。何年か前に移転、以前の校舎跡に新校舎の案内が掲示してあるとのこと。

【スリーポイント大会】

○中学・金森君が優勝。/高2・藤江君が同点決勝で惜しくも敗れ2位。

【高校】

○帝京には50点差で負け。○立教池袋には6点差で負け。

○本郷には2点差で勝ち。

○立教・本郷と1勝2敗で並び得失点差で3位。

ベスト5には高2・須賀君(PG、No6)が選ばれた。

【中学生決勝】武蔵一本郷。

第4Q途中で2点差まで迫ったが、惜しくも及ばず8点差で準優勝。

2005年度、 中学バスケットボール部現役紹介

現在中学バスケットボール部は、中一15名、中二9名の合わせて24名です。コーチは渡部大祐(74期)、木本健一(78期)、堀田恭平(79期)の3名でやっています。練習日は火、木、土の週三日、一回三時間くらいです。

中学の公式戦は、秋の新人戦、春のブロック大会、夏の総体と三回あり、どれも三位以内に入ると都大会に出場できます。ここ最近では、2003年度に三大会で都大会に出場しましたが、だいたい練馬区の予選で負けてしまうのが現状です。つい先日の新人戦でも、練馬区一位の大泉中に敗れてしまいました。